

◆ 今週のコメント

- ・ インフルエンザの定点当たり報告数は、0.34(23例)で、第7週の半数以下になっています。
- ・ 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、8.78(360例)で、第3週以降、過去5年平均値を大きく上回る状態が続いています。
- ・ 流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は、0.66(27例)で、第4週以降、過去5年平均値を上回る状態が続いています。
- ・ RSウイルス感染症の定点当たり報告数は、0.34(14例)で、平成21年12月以降、過去5年間の平均値を大きく上回る状態が続いています。年齢階級別では、0～3歳で報告があり、1歳が35.7%(5例)と最も多くなっています。

◆ 今週のトピックス: <水痘>

水痘の定点当たり報告数は1.41(58例)で、本年度で最も多い報告数となっています。
詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

- ・ 五類:梅毒(晩期顕症) 1例(第7週追加分)【1月以降の累積報告数 1例】

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.34	23
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	8.78	360
	② 水痘	1.41	58
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.95	39
	④ 流行性耳下腺炎	0.66	27
	⑤ RSウイルス感染症	0.34	14
	⑤ 突発性発しん	0.34	14
眼科	流行性角結膜炎	0.10	1

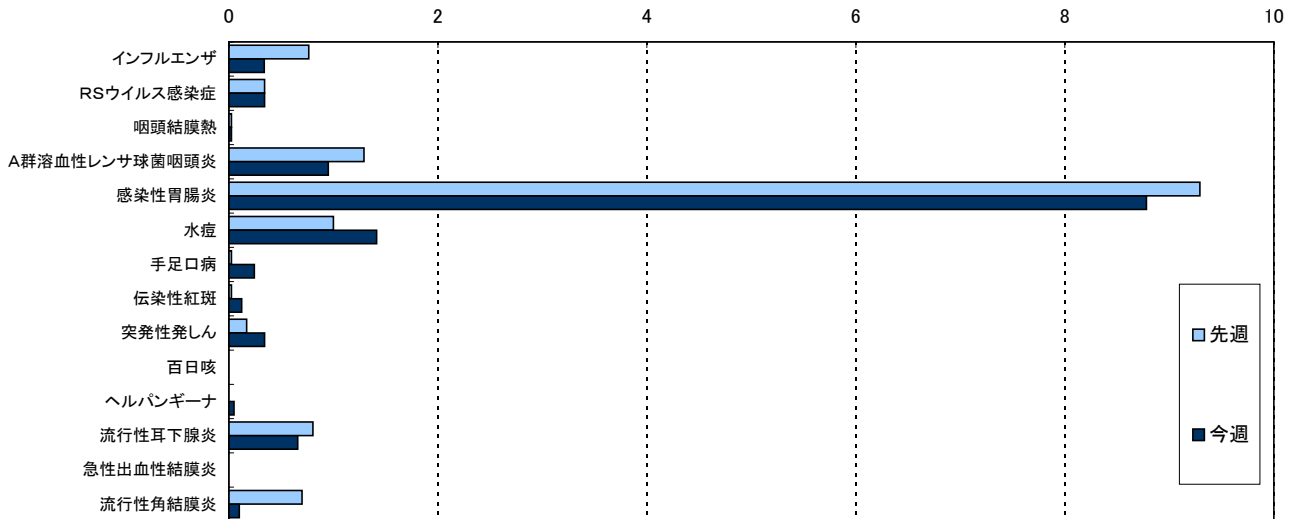
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <水痘>

(注)京都市のデータは、平成22年3月4日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。

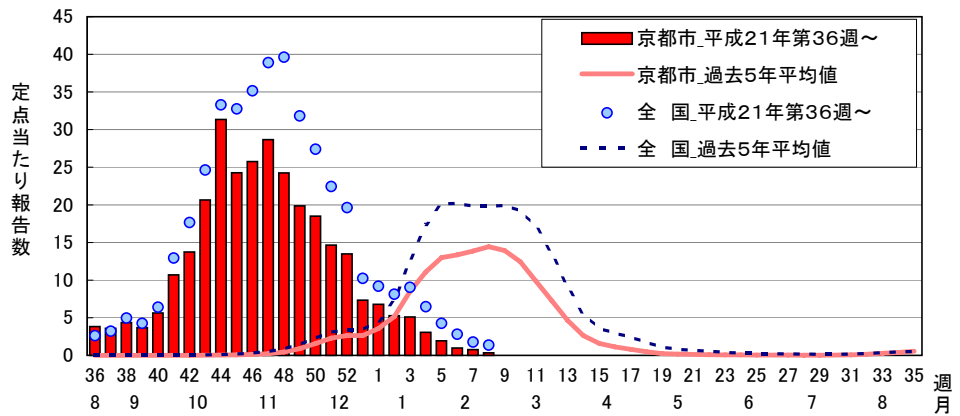
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第8週)と先週(第7週)の定点当たり報告数の比較



2 インフルエンザの推移

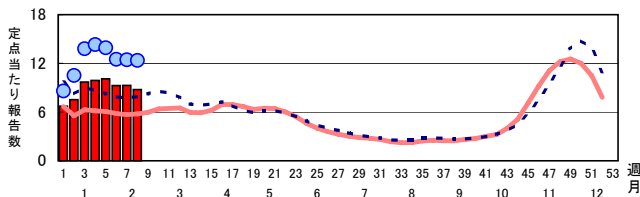
週	報告数(例)
第4週	208
第5週	131
第6週	66
第7週	52
第8週	23
累積報告数 (第36週以降)	20298



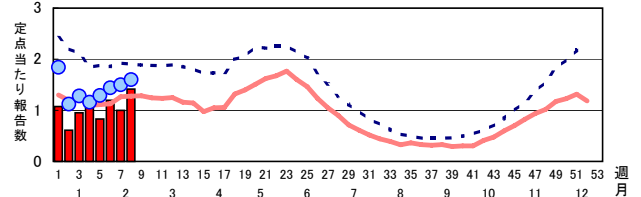
3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>

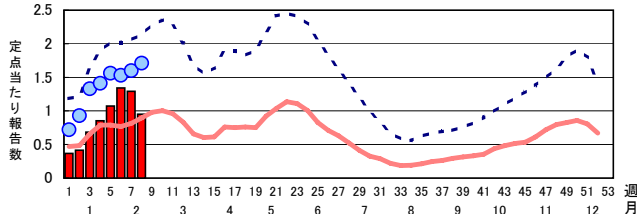
1 感染性胃腸炎



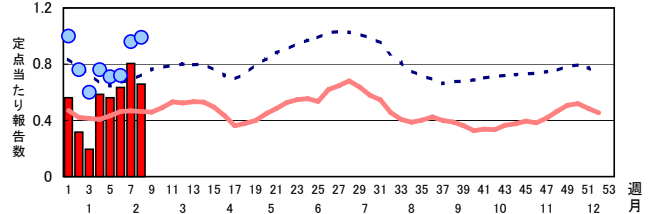
2 水痘



3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

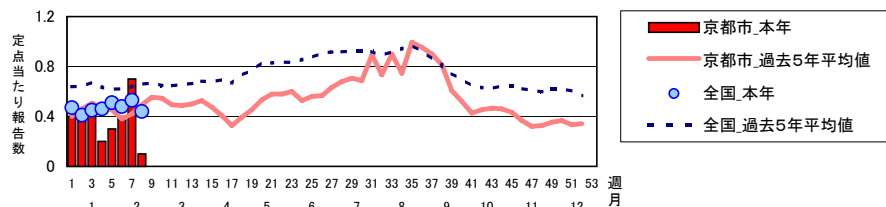


4 流行性耳下腺炎



<眼科定点>

流行性角結膜炎

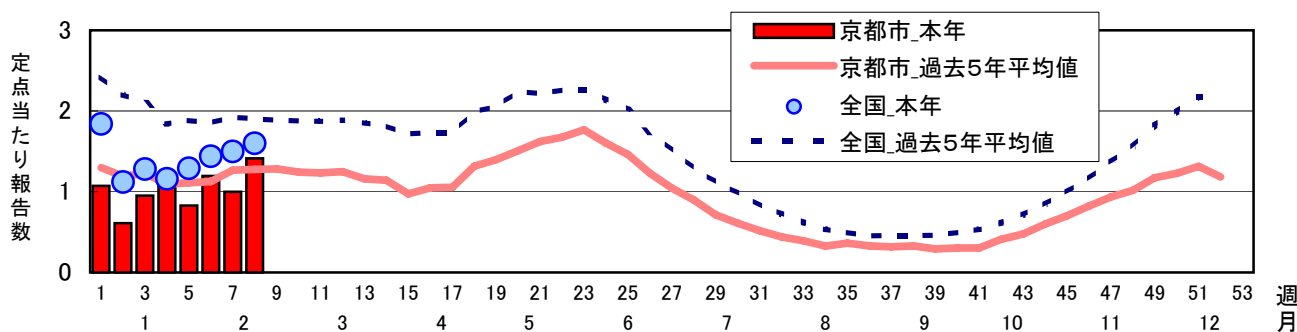


第8週(2月22日～2月28日)トピックス: <水痘>

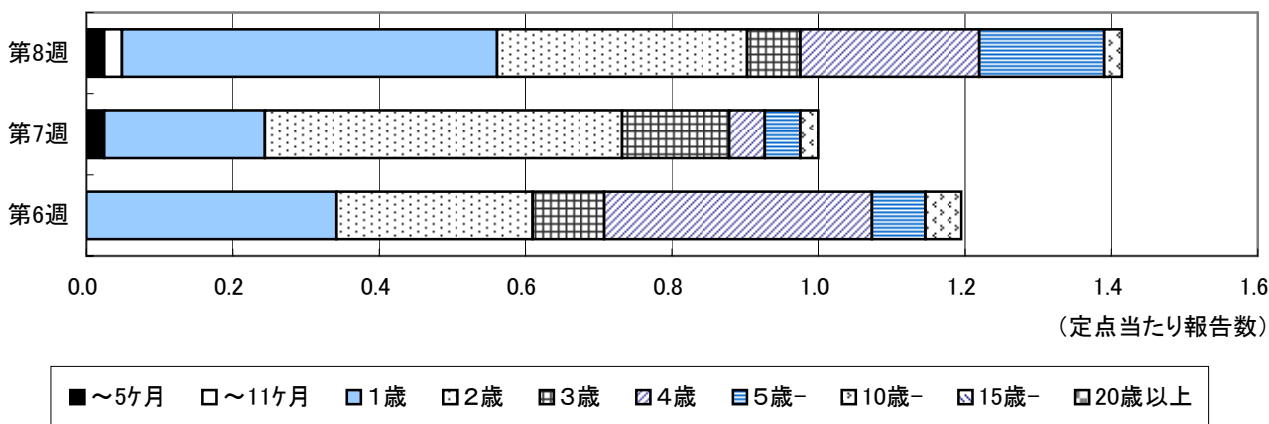
水痘の定点当たり報告数は1.41(58例)で、本年で最も多い報告数となっています。全国では1.60で、第1週に次いで多い報告数となっています。

年齢群別にみると、「1歳」、「2歳」、「4歳」、「5歳」の順に多く、5歳以下で91.4%を占めています。行政区別にみると、南区で最も多く、次いで東山区となっています。

本市及び全国の定点当たり報告数 推移



年齢群別定点当たり報告数の推移



行政区別定点当たり報告数の推移

